

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 4171400049 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 唐津福祉会 | | |
| 事業所名 | 浜玉荘 | | |
| 所在地 | 唐津市浜玉町東山田2399番地 (電話) 0955-56-8711 | | |
| 評価機関名 | 社団法人 佐賀県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 佐賀市八戸溝一丁目15番3号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 21年1月14日 | 評価確定日 | 平成 21年2月20日 |

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成12年10月12日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 | 14人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | RC造り | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 15,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 160 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 18 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 8 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 1 名 | | |
| 年齢 | 平均 88.6 歳 | 最低 | 73 歳 | 最高 | 101 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--|
| 協力医療機関名 | あおぞら胃腸科、医師会医療センター、唐津養護院、阿部医院、桑原医院、松尾歯科 |
|---------|--|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れた、閑静で緑の多い自然豊かな環境の中で、特別養護老人ホームと棟続きのユニットと、同じ敷地内に建つ平屋一戸建てのユニットの2ユニットからなる事業所である。それぞれが独自に地域密着型サービスの役割やその実践について検討し、良い意味で競い合い、そして協力し合って質の向上に努められている。
「和、ほっ!、笑顔」、「思いやり、笑顔」と、どちらのホームの理念からもうかがえる様に、「笑顔」を常に意識し、管理者と職員が一体となって安全で安心できるサービスの提供に取り組まれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、勉強会を通して全職員で見直されている。項目を一から確認することで、現状を知り、今後のケアに活かせるようにされている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価についても全職員で取り組まれている。項目一つ一つを理解することで、質の確保とサービスの向上に繋げるよう努められている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの行事や入居者の暮らしぶりなど、ホームの実情等が報告され、参加者からの意見や要望を受け、サービスの向上に活かせるよう取り組まれている。開催は2ヶ月に1回で、地域の代表、利用者家族、行政職員などの参加が得られている。また、運営推進会議への参加を通して市行政担当職員との連携も強まり、いつでも気軽に相談できる関係づくりができています。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の暮らしぶりについては、毎月の利用料金の領収書発行時に担当職員から現状の報告や、定期的なホーム便りの発行などで情報提供に努められている。またホーム内の気づき箱の設置や、各居室内の面会簿で意見や気づきなどを聞いたり、できる限りカンファレンスなどへの家族の参加を促すことで、要望などを把握し運営に反映できるよう取り組まれている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者が以前生活されていた地域を訪ねたり、地域の行事には積極的に参加するなど、地域密着型サービスとしての役割を十分に理解され、地元の人々と交流することに努められている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | それぞれのユニットで地域とのかかわりを意識し、ほっとできる環境の中で暮らせるよう、地域密着型サービスとしての役割を目指した独自の理念が作り上げられている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員間で共有されており、職員一人ひとりが理念を意識したサービスの提供に取り組まれている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 入居者が以前生活されていた地域を訪ねたり、地域の行事には積極的に参加するなど、地域密着型サービスの役割を十分に理解され、地元の人々と交流することに努められている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価結果については、勉強会を通して全職員で見直しが行われ、今回の自己評価についても全職員で取り組まれている。項目一つ一つを理解することで、質の確保とサービスの向上に繋げるよう努められている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームの行事や入居者の暮らしぶりなど、ホームの実情等が報告され、参加者からの意見や要望を受け、サービスの向上に活かせるよう取り組まれている。開催は2ヶ月に1回で、地域の代表、入居者家族、行政職員などの参加が得られている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議への参加を通じて連携が強まり、いつでも気軽に相談できる関係づくりができています。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月の利用料金の領収書発行時に、担当職員から現状の報告がなされている。また定期的にホーム便りが発行され、できるだけ入居者全員の写真が載るよう工夫されるなど、入居者の暮らしぶりについての情報提供に努められている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム内に気づき箱を設置したり、各居室内に面会簿を置き、家族が意見や気づきなどを自由に記入できるよう取り組まれている。また、できる限りカンファレンスなどへの家族の参加を促し、意見や要望の把握に努め、運営に反映できるよう取り組まれている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 入居者と職員の馴染みの関係が継続できるように、異動は最小限に抑えるよう配慮されている。異動があった際には便りで家族へ報告するとともに、利用者へのダメージを防ぐよう、顔と名前を覚えていただく所から、ゆっくり時間をかけて引き継ぎが行われている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での定期的な勉強会や事業所独自でも勉強会を行うなど、研修の機会は多く設けられている。また、経験年数などに応じて必要な法人外での研修会にも参加できるよう、勤務時間を変更するなどの配慮がなされている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人外での研修会への参加を通して地域の他の事業所との交流が始められている。特に管理者間での情報交換を行ったり、定期的にホーム便りを送付するなどの取り組みがなされている。 | ○ | 今後、他事業所と相互間での見学会や研修会などを開催し、管理者・職員ともに、日々のサービスの提供や職員の育成に役立つ実践的な交流、関係づくりがなされることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用申し込みがあった時に、できるだけ家族と共に見学してもらい、雰囲気を味わっていただくようにされている。また、併設の施設を利用しながら馴染みの関係作りをするなど、安心してサービスが開始されるような工夫もされている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一方的に支援するのではなく、調理方法や漬物の漬け方と一緒にしながら入居者から学ぶなど、日々の生活の中で共に支えあえる関係作りに留意されている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の会話やかかわりの中から入居者一人ひとりの思いや希望、意向の把握ができるように心がけられている。また、困難な場合には、家族から希望を得るなど、情報収集に努められている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者が自分らしく暮らせる様、日々の生活の中での気づきを職員・家族と共有し、本人の要望や、医師の意見なども含め、介護計画に反映されている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的に評価と介護計画の見直しがなされている。心身の状態に変化があった時は、本人や家族、医師と話し合いを行い、状況に応じて見直しが行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者本人や、家族の状況、要望に応じて外出や外泊、通院など必要な支援には柔軟に対応されている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族等の希望に沿って、事業所の協力医だけではなく、入居前からのかかりつけ医と継続した関係が持てるよう支援されている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期については、入居時から本人や家族などに事業所としての指針が説明されている。また、状態の変化に合わせてかかりつけ医も含めた話し合いを行い、方針を共有されている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者が嫌な思いをされない様な言葉かけを行うなど、対応については、日頃から勉強会などで職員の意識向上に努められている。また、個人情報の取り扱いについても十分に配慮されている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者のペースに合わせて、ゆっくりと行いたい方には時間をとったり、希望に沿った支援がなされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備から後片付けは、入居者個々の能力を活かしながら職員と一緒に行われている。また、バイキングメニューを取り入れたり、気候の良い日には屋外で食事を行うなど、楽しいものとなるような工夫がなされている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入居者の要望をもとに、基本となる入浴時間は定められているが、利用時の希望やタイミングに合わせての入浴も可能である。風呂には温泉がひかれ、また、併設の施設の広い浴室を利用したりと、入浴を楽しめるような工夫がなされている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 畑仕事や縫製、歌を歌うことなど入居者の生活歴や能力を活かして、張り合いや喜びのある生活ができる様な支援がなされている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 法人が有する敷地面積が広く、隣接する施設への訪問はもちろん、戸外へも気軽に出ることが可能である。日頃から散歩に出たり、入居者の希望に応じてドライブや買い物に行かれるなど、ホームに閉じこもらないような支援がなされている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 見守りや、入居者の状況を常に把握することで日中は鍵をかけないケアが実践されている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎月法人全体の避難訓練が実施されている。その中で年2回は消防署の協力、指示のもとで行われており、避難経路の再確認が行われている。併設施設との協力的体制もできており、地域の消防団からの協力も得られている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、入居者一人ひとりの状況把握に努められている。また、献立は栄養バランスを考え、法人の栄養士が作成した献立をもとに、入居者の状況に合わせて作成されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングスペースの飾り付けや家具の配置などで、季節感や生活感を感じることもできるような工夫がなされている。また、入居者が思い思いに居心地良く過ごせるような配置、空間作りにも配慮がなされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には入居者の馴染みの物が持ち込まれ、本人の好みに飾り付けがなされたり、家族の写真を置くなど、居心地良く過ごせるように配慮されている。 | | |